

山西杏奈

YAMANISHI Anna

山西 杏奈

YAMANISHI Anna

光や影、空気、重力などの自然現象をモチーフに、主に木を素材とした作品を作っている。木目や節、傷跡などから見える別の場所や時間の痕跡と対話するように制作することで、他の存在に取り込まれるような感覚がある。自分の持つイメージと素材そのものが一体となる状態を求めて、はっきりと目に見えないけれど、確かに息づく気配を表現することを試みている。
— Y.A.

- 1990 大阪生まれ
- 2014 京都市立芸術大学大学院 美術研究科修士課程 工芸専攻漆工分野 修了

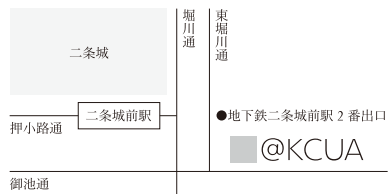
- 主な展覧会
- 2016 個展「inside of the case」(同時代ギャラリー/京都)
- 2017 京都府新鋭選抜展 「Kyoto Art For Tomorrow 2017」(京都文化博物館/京都)
- 2018 京都府新鋭選抜展 「Kyoto Art For Tomorrow 2018」(京都文化博物館/京都)
- ARTISTS' FAIR KYOTO: BLOWBALL 「ART MEETS WINTER」(タイム堂/京都)
- 京都市立芸術大学移転プロジェクト “教室のフィロソフィー Vol.4”
- 山西杏奈個展「あわいのかたち」(元崇仁小学校/京都)
- 山西杏奈+松平莉奈展 「球体と三角」(KUNSTARZT/京都)

- 2019 punto “practice/study/exercise” (galerie 16/京都)
- 賞歴・助成等
- 2011 京都市立芸術大学作品展 平館賞
- 2013 京都銀行美術支援制度2013年度購入作品選抜
- 2014 京都市立芸術大学作品展 大学院市長賞
- 2019 アーツサポート関西「岩井コスモ証券ASK支援寄金」

表面作品：
《blind》| 700×600×80mm | スギ | 2018
Photo: Takeru Koroda

会場アクセス：
〒604-0052
京都市中京区押油小路町 238-1
TEL: 075-253-1509
http://gallery.kcua.ac.jp

地下鉄：「二条城前」駅（2番出口）
南東へ徒歩約3分
バス：「堀川御池」バス停下車すぐ



朝と夜、森にて

物語の始まりも終わりも
全て見た
森に居た時目にしたそれはそれは美しい朝と夜の中で
そこに何があったのだろう
満ち足りた端から溢れていく野晒しにされた皿
約束された地も約束されていない地も
みな等しく祝福していたい神の血
巡る時間の中で私の右手の爪は朝を削り
左の足裏で夜を踏んでいた
何かを燃やす匂いで目が覚める
神聖な灰は指の間を溶けてすり抜け爪先を濡らす
乾いたものはふやけているね
濡れたものはひび割れている
目を開くと朝だろうか
夜だろうか
見た事のない景色見たさに気色ばんだ眼差し

耳元でぼそぼそと話しかけ続けた甲虫の顔を踏んだ言葉
飢えた子らの重たい足音
柔らかで発酵した泥は満月の下で母へと形を変えた
光の下でそれらは姿を消してゆく
水の流れを顧みずに
抑揚をつけておはようと告げたら
速かにおやすみ

森山 佐紀

MORIYAMA Saki

「壺や瓢は単なる容れ物ではなく、魂が封じ込められている」という一節を岩田慶治さんの本で読んだ。私は漆を使って制作している。この素材の特性として、素手で触るとかぶれてしまう現象や、塗面が乾く時に生じる縮みなどがある。それらはまるで生き物のようだ。私は思う。さらに、その生き物めいた部分の底知れなさに一種の神秘性も感じる。魂を封じ込めるもの、不思議な力を与えるもの、このふたつを響かせたい。
— M.S.

- 1988 ニューヨーク生まれ
- 2015 京都市立芸術大学大学院 美術研究科修士課程 工芸専攻漆工分野 修了

- 主な展覧会
- 2015 個展「景色をとらえる」(gallery301/兵庫)
- TERRADA ART AWARD 2015 入選者展 (T-Art Gallery/東京)
- 2016 個展「山を見る」(T-Art Gallery/東京)
- 2017 石川直樹による写真学校 「第2期フォトアーキペラゴ写真学校修了制作展」 (香川県文化会館 県民ギャラリー/香川)
- 2018 アートフェア「ARTISTS' FAIR KYOTO」(京都文化博物館別館/京都)
- 2019 punto “practice/study/exercise” (galerie16/京都)
- 賞歴・助成等
- 2012 京都市立芸術大学作品展 市長賞
- 2015 京都市立芸術大学作品展 大学院市長賞
- TERRADA ART AWARD 2015 優秀賞 (ミヤケマイ賞)

表面作品：
《唐草文瓢形瓶》20.4×35.0cm | 2019 | MDF・寒冷紗・地の粉・砥の粉・漆
Photo: Takeru Koroda

詩と構成

天牛美矢子

TENGYU Miyako

- 1989 大阪生まれ
- 2015 京都市立芸術大学大学院 美術研究科修士課程 工芸専攻染織分野 修了

森山佐紀

MORIYAMA Saki

2020.2.15 Sat. — 3.1 Sun.

京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA

それは本当の葉
小さな羊飼いの肌の上を転がる、
麦の大きさをした光の粒と
木星で採取した金属片

玉髓で出来た雲の匂い
強い風が吹く山の天文台で
観測された星の死

全てが混ざり溶け合って
作られた聖なる葉



《saki》
50×180×220mm | ナチュラル | 2019
Photo: Takeru Koroda

残念ながら
味はさながら外国産の歯磨き粉
しかし一粒で全ての苦しみを終わらすことが可能な
本物の奇跡の妙薬

いつまでも終わることのない強い風が吹く中で
私はこれをいつ飲むのがふさわしいのか

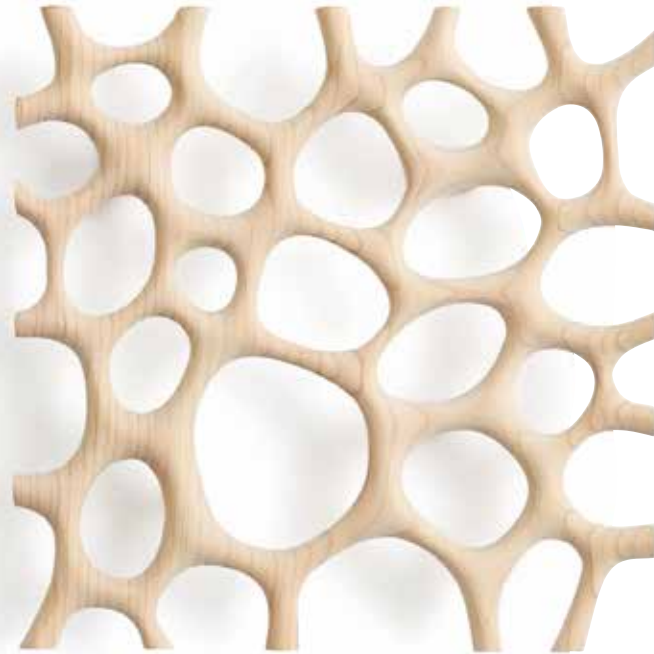
ずっと答えを出せないまま
美しい結末を夢想する

—聖なる葉—

《三本立葉》
300×400×600mm | ナチュラル | 漆 | 2019
Photo: Takeru Koroda



《空の脈》
35×250×250mm | ナチュラル | 金網 | 漆
Photo: Takeru Koroda



朝と夜、

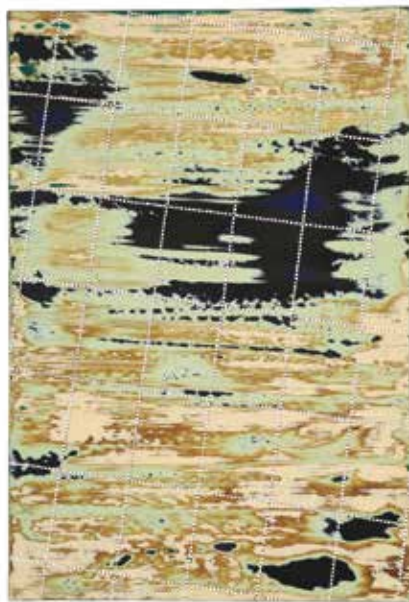
MORNING AND NIGHT, IN THE FOREST

森にて



《無題》
アクリル板・漆・貝 | 10×10cm | 2019

《空からの絵》
木製パネル・寒冷砂・地の粉・砥の粉・漆・卵殻 | 35.0×24.0cm | 2015



今はまだ出口を探す苗のまま

—壺の中から宇宙

有ったのはわずかな諦めが混ざった吐息
知っている この酷く重力を伴う日々を

ああ けれどこの葉の色は
この箱庭のような空間に多少の彩りになっているのだろうか

両生類の耳は宇宙の天井を見てしまった
神秘など無かった

井戸の底には理想郷
いや、あれはもしかしたら壺の穴かもしれない

そこには海も無く空も無い
足場になるようなものが何も無い空間の中を気づいたら落下している
いや、もしかしたら上昇しているのかもしれない



《無題》
アクリル板・漆・貝 | 10×10cm | 2019



《無題（水注）》
ステンボード・寒冷砂・地の粉・砥の粉・漆・貝 | 33.5×11.5cm | 2019
Photo: Takeru Koroda